

社会的養護経験者全国交流会のご報告

一般社団法人 Masterpiece

菊池 真梨香

概要：社会的養護を経験した若者たちのネットワークづくりのために 2018 年から川瀬信一氏、中村みどり氏を始めとする当事者参画を推進する者たちにより実施されている全国交流会。今年度で3回目であるが、厚労省の補助事業としては第 1 回目の実施。

- 目的：① 施設や里親家庭等で育った経験者が集うネットワークをつくる
 ② よりよい当事者活動や支援の在り方を考えるとともに、
 情報発信および政策提言を行う

■これまでの実施方法

	2018 年	2019 年	2020 年
実施日	11/23-11/25	11/2-11/4	11/21-11/23
実施地	大阪	東京	オンライン
実施	宿泊・通い	宿泊・通い	在宅・東京サテライト
運営費用	寄付等	寄付等	厚労省
参加費	参加者自己負担	参加者自己負担	厚労省
参加者	約 40 名	約 50 名	約 50 名
発表会参加者	約 40 名	約 100 名	約 100 名以上
参加者地域	東京、大阪、福岡	東京、大阪、福岡	全国
運営主体	社会的養護経験者全国ネットワーク	社会的養護経験者全国ネットワーク ※報告書あり	社会的養護経験者全国ネットワーク 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング ※厚生労働省の補助事業として実施

■メリット

- ・各団体のネットワーク構築、情報共有、協力関係構築 = コレクティブインパクト
- ・新たなコミュニティから生まれた活動があった (Web、勉強会など)
- ・新たな出会い、つながりができた →1つの居場所となり、孤立を防ぐ
- ・声が聴かれる経験、制度に反映される経験 = エンパワメント
- ・経験者(利用者)の声が集められる = よりよい制度づくりに貢献

■Why? How? What? で考える全国交流会

Why? —なぜ全国交流会が必要か	How? —どのように解決するか	What —何をするか
声が聴かれる機会が少ない	→声が聴かれる場を作る	→継続的な実施
届くべき声が届いていない	→声を集め、国に届ける	→発表会、報告書、提言の場に届ける
同じ経験をもつ者同士が 出会う・つながれる場所が 少ない → 孤立	→出会う・つながれる場所 となる	→継続的な実施。スタッフ、 ユーススタッフの養成。
情報が施設などに入ってき にくい	→情報を得る場にする。	→団体、活動、資源紹介を し、アクセスしやすくする。

■全国交流会の開催が継続されることによる影響

- ・多くの社会的養護経験者に情報が届くようになり、資源にアクセスできるようになる。
- ・社会的養護経験者の孤立を防ぎ、エンパワメントを促す。
- ・交流会自体が厚労省のヒアリングの一部となる。 → 制度、政策への反映がスムーズになる。

■課題

- ・オンライン体制のリスクマネジメント(心理的安全な場づくりの難しさ)
- ・インケア(措置中)の子どもたちの参加のハードルがある

■必要なこと

- ・継続的な開催のための安定的な資金。
- ・担い手の養成。社会的養護経験者や、当事者活動支援者の養成。専門家養成。
- ・社会的養護経験者の声が制度、政策へ反映されるためのしくみ。

社会的養護経験者による提言 → フィードバック → 経験者からの評価 → 施行

- ・システムアドボカシーのための働き手・担い手が必要。